



めざせ! 南十字星

笑顔があふれ、しあわせを感じられる学校

学校便り

令和4年10月号

ヨハネスブルグ日本人学校

全校朝会「言葉遣い」は「心遣い」マザーテレサの言葉を紹介しました

本校では、あいさつの大切さや道徳の授業、さらに、JSJ コロナ感染症対策基準停止を受け、子供たちによる教室の清掃を再開しています。これらの取組を始め、子供たちの豊かな心を育む教育を意図して実践しています。

言葉遣いに関して、マザーテレサの残した言葉を全校朝会で何度か紹介したことがありました。マザーテレサは他にも数々の名言を残していますが、下記の言葉が特に気に入っています。もちろん、私自身に対する戒めの意味も含んでのことですが。

思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから。
 言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから。
 行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから。
 習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから。
 性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから。
 マザーテレサ

【マザーテレサ】

1910年—1997年
 (マケドニア)

1979年、長期間にわたる献身的な働きにより、苦しみのなかにいる人々に安息をもたらしたことが認められノーベル平和賞を受賞。

子供たちには、色付きの部分は空欄にして、どんな言葉が入るのかを想像させながら紹介しました。

小さい学齢の子供たちには、少し難しい話になりましたが、普段なにげなく自分の考えが自然に言葉になり、行動することにつながることは理解できたようです。自分の習慣や性格を自ら理解することは大人でも難しいことですが、マザーテレサの言う運命とは何か、これからの自分の人生をどう生きるかをほんの少しでも意識してくれたらと思います。

学習中や休み時間に限らず、教師と子供たちが互いに発言や行動を認め合う場面が日々見られます。時には子供たちの気になる言葉遣いや行動には、その都度、諭したり振り返らせたりする指導も見られています。



そのような実践の成果でしょうか。本校には、いつも相手を思いやる声掛けや困っているお友達への優しい手助けなど、感動を与えてくれる子供たちがたくさんいます。

彼らの心遣いには、もちろんご家庭でのお教えが大きな影響を与えていると思います。今後も、子供たちの運命が明るいもの、自分の人生を切り開き、素敵なものになるよう、保護者の皆様と連携していきたいと考えております。

第3回国際交流 Radford House School の児童生徒が来校



9月13日に、ラドフォード・ハウス・スクールの児童生徒が来校し、第3回目の交流を行いました。今回の交流のテーマは、「日本の文化を知ろう」でした。

ラドフォードの子供たちも、ちょうど日本をテーマとした学習を始めており、うれしいことに挨拶も日本語で会話が始める子もいました。当日は、生活科、音楽、図工や体育など、日本の授業を体験してもらうための授業を先生方は全員、英語で行いました。ほんの一部の紹介となりますが、音楽では、子供たちが先生役となり、ラドフォードの子供たちは、初めての太鼓で「さくら」を見事に演奏していました。





図工科では、粘土をつかって、動物をつくり、日本語や英語で発表をし合うなど、笑顔がたくさん見られました。中学生の交流活動では、お箸を使った競争を行いました。とても上手な箸使いができる子もあり、互いに楽しい時間を過ごすことができました。

授業の間の交流タイムでは、子供たちが日本の遊びを紹介することを進んでいき、紙飛行機を飛ばし合ったり、車座になって談笑しあったり楽しく遊ぶ様子が見られました。

最後は、お決まりの「ヨハネスソーラン」を披露し、迫力のある踊りにたくさんの拍手をもらいました。



さらに、うれしいことに、1週間ほど経ってから、ラドフォードの子供たちからペアを組んだ子供宛に書いた御礼の手紙が届けられました。お手紙をもらった子供たちも早速苦勞しながらも英語で御礼の返事を書き、届けることができました。国際交流の方法などは、訪問や招待などそれぞれあるものの、交流ごとのねらいがしっかりと達成できていることをとてもうれしく思います。

次回の交流は、「グリーンサイド小学校」に招待されて、交流を行いながら、お互いの文化を紹介しあう予定です。

